

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

絶えず祈りなさい

(テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 5 : 17)

聖書には「祈ること」を薦めるみ言葉に溢れています。また信仰生活とは祈りの生活だといっても良いでしょう。

そして主イエス・キリストご自身が、まさに「祈りの人」でした。

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた (マルコ 1 : 35)」とあります。

その他にも福音書には、イエスが折々に一人祈られたことが数々記されています。

イエスは神の御子なのだから、祈られるのは当然と思われるかも知れません。

しかし神の御子のイエスでさえ、祈りの内に宣教の業をされていたのなら、私たちが祈ること無しに宣教や信仰生活を歩もうとしても、それは果たして可能なことだろうかということなのです。

聖書に「祈ること」を薦め、教える数々のみ言葉があるということは、逆に見ると、そこまで薦められないと、私たちがともすれば祈りを忘れがちだということでもあります。

「後は祈るしかない」という表現があります。万策尽きて絶望的な状況を語っているものですが、見ようによっては「祈ること」は最後の手段と考えているようでもあります。

しかし本当は何ごとにしても、まずは最初に祈りから始めるべき筈だと言うことです。

祈らなくてはならない状況とは、ある意味危機的で頼りない状況です。私たちはそれを避けたく思いがちです。言い方を変えれば、祈らなくてもよい状況を求めているのです。

しかし本来、私たちの命はいつだって神の御手にあることを忘れていているのです。祈りはそれを思い起こさせるものであり、しかも神が日々、愛のうちに私たちを生かしてくださっていることに改めて気付かせ、喜びと感謝の内に新たに歩み出す力を与えるものです。

共に祈りの生活を歩んで参りましょう。

**新型コロナウイルス感染症の感染拡大抑止のための対策として
姫路顕栄教会における 9月12日(日)までの
主日礼拝を含む全ての集会を自粛(休止)します。**

8月20日(金)から緊急事態宣言が発出されました。信徒・参列者の安全と、感染拡大抑止及び一日も早い新型コロナウイルス感染症終息のための対策としてご理解ください。尚、緊急事態宣言が上記以降にも延長された場合には集会自粛期間も延長致します。